

白根地区

～貴重な町屋群が残る
凧合戦のまち～

ガイド紹介



世界一の大凧合戦と、伝統的建築物が残る町屋の街並みを案内します。

しろね大凧タウンガイド

「しろね大凧タウンガイド」は、白根大凧合戦期間中、凧合戦のルールや見どころをガイドするほか、合戦期間外も、町屋や小路を中心とした白根商店街の町並みの魅力を、まち歩きを通じてガイドしている。

しろね大凧
タウンガイドのみなさん

【ガイド申し込み先】

しろね大凧タウンガイド事務局

電話：070-4296-3345

(平日9時～17時)

メール：shironetown@yahoo.co.jp

(ガイド依頼は随時受付)

ガイド料：1人500円(中学生以下無料)



白根といえば凧合戦のまちですが、実は凧以外にも面白い見どころがたくさんあります。ご要望に応じて様々なコースを用意しておりますので、ぜひ白根のまちを歩きに来てください。Facebookでも活動情報を発信しています。

世界一の大凧合戦を支える設備たち

毎年6月上旬に開催される白根大凧合戦は、川幅約80mの中ノ口川を挟んで、24畳の大凧約300枚、六角凧の巻凧約1200枚が戦う、世界最大スケールの凧合戦だ。そんな大凧のまち・白根には、人々の日常生活とは全く関係のない、「凧合戦の為だけに」作られた設備が点在する。白根の人々の凧にける情熱と工夫を垣間見ることができる、おすすめのまち歩きスポットだ。



1 白根橋東側の堤防上に佇む青い横棒



白根商店街から白根橋へ向かう坂を上っていくと、左手の堤防護岸上に、手すりのような青い横棒がある。これは、東側の大凧が、合戦に至らなかった大凧を下ろして回収する際に、堤防の護岸コンクリートで凧綱を傷めないために設置されている、「手すり」ならぬ「凧綱すり」なのだ。

2 世界に2つだけ!? 凧合戦専用マンホール

凧合戦期間中、このマンホールの下に隠れている土台に支柱を立て、大凧が合戦で綱を引き合う際に、相手に綱を引き取られないように巻き付けられる。西(味方)側とあわせて、世界に2つしか存在しない凧合戦専用マンホールなのだ。



洪水を止めた米俵

昭和36(1961)年の豪雨で旧富月橋付近から越水した際、政府米439俵を積んで白根のまちを洪水から守った。



県内有数の保存率を誇る白根商店街の町屋



3 切妻屋根の町屋群 (魚町)



4 看板建築の町屋 (五六の町など)



5 大規模な町屋 (五六の町)

白根商店街には、県内でも有数の保存率を誇る町屋(商人・職人の伝統的な住宅)が数多く残されている。白根の町屋の特徴として、町屋と町屋の間の約90cmの隙間を、隣接する町屋同士で床の間や押し入れとして利用する「ダシアイ」という構造が見られる。また、屋根の形状は切妻・妻入り形状のものが多く、魚町にはこの切妻・妻入り屋根の町屋が連続して立ち並ぶ貴重な町並みが見られる。さらに、建物正面を銅板やモルタル等で平面に装飾した「看板建築」と呼ばれる建築様式の町屋が見られるなど、白根の町屋は多種多様で、見ていて飽きることがない。

出典：白根町並み巡りMAP(しろね町屋あるき研究会発行) 白根の町屋について図解付きで詳しく解説されている

※白根の町屋はすべて非公開です。まち歩きの際は住民のプライバシーにご配慮ください。



様々な由来をもつ小路巡り

白根のまちなかには、様々な由来をもつユニークな名前の小路がたくさんある。リオンドール白根店脇にある「トロッコ小路」は、かつて醤油蔵から中ノ口川へ醤油を運ぶトロッコの線路があったことに由来する小路である。その他にも、「ダンジロウ小路」や「仙庵小路」など、その土地にゆかりのある人物名が由来となった小路や、「通らん小路」など変わった名前のもも。それぞれの小路には、小路の名前が記された路盤サインが貼ってあるので、自分のお気に入りの小路を探してみるのも面白い。



6 通らん小路



路盤サイン 通らん小路

まちなかの案内標識を探してみよう!



白根商店街には、しろね大凧タウンガイドが整備を行った案内標識が53枚設置されている(※)。案内標識には、まち歩きの見どころが写真・図柄付きで詳しく解説されているため、ガイド無しでもまち歩きを楽しむことができる。また、その地域がどこの大凧組に属しているかを凧組の絵柄で表示しているため、凧合戦が開催されていない時でも凧を身近に感じながらまち歩きをすることができる。

※令和2年12月現在。

※地図は実際の縮尺とは異なる場合があります。